

下侍塚古墳

おおたわら ゆづかみ
栃木県大田原市湯津上地内栃木県生活文化スポーツ部 文化振興課
宇都宮市埴田1-1-20 TEL028-623-3425(公財)とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター
下野市紫474 TEL0285-44-8441
http://www.maibun.or.jp

栃木県では重要な遺跡や文化財の保存・活用事業「いにしへのとちぎ発見どき土器わく湧くプロジェクト」の一環として、令和3年度より上・下侍塚古墳の調査を行っています。

上侍塚古墳の調査は10月で終了し、11月からは下侍塚古墳の調査を行っています。

今回の調査では古墳の表面を覆う葺石や周溝の一部が明らかになりました。また、墳丘の裾部より埴輪の破片が出土しました。埴輪の出土は前方後方墳では珍しく、県内でも初めてです。

調査の状況

a S0西(後方部西)トレンチ

墳丘上部の葺石が裾部に大量に落下しています。落下した葺石を取り除くと本来の葺石が確認されました。

周溝の土層の堆積状態を見ると、火山灰が薄く層状に堆積しています。この火山灰を調べることで埋没した年代がわかるので、今後分析する予定です。



火山灰が層状に堆積しています。



火山灰が確認された様子(南西から)

b NW(後方部北西)トレンチ

旧湯津上村教育委員会が1975(昭和50)年に調査したトレンチの位置を確認するために再発掘しました。

トレンチの位置とともに北側では周溝の立ち上がりを確認しました。

周溝の立ち上がり



49年前の調査トレンチの痕跡(南から)

c E0北(後方部北)トレンチ

墳丘裾部の葺石が確認されました。下方の葺石はならかに周溝へと続きます。

裾部からは赤い顔料が塗られている埴輪片が出土しました。三角形と考えられる透かし孔の一部が確認できる破片もあります。



埴輪の破片が出土した様子(北西から)

d S0東(後方部東)トレンチ

墳丘裾部の葺石を確認しました。



周溝の様子(東から)

